

第8回認知症医療介護推進フォーラム

シンポジウム1

「新型コロナウイルス感染症と認知症予防」

新型コロナウイルス感染症流行下で 起こったことと認知症予防

令和3年度2月7日

広島大学大学院医系科学研究科共生社会医学講座

石井伸弥

本発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

調査

新型コロナウイルス感染症流行下（第1波）で
認知症本人、家族に何が起こったか

認知症者の実態調査

老年医学会と共同実施

施設入所中認知症者

対象：高齢者医療・介護施設

方法：調査票へのリンクを案内
施設担当者が記入

調査期間：6月1日～6月29日



945施設が回答

在宅認知症者

対象：介護支援専門員

方法：調査票へのリンクを案内
各介護支援専門員が記入

調査期間：6月18日～7月10日

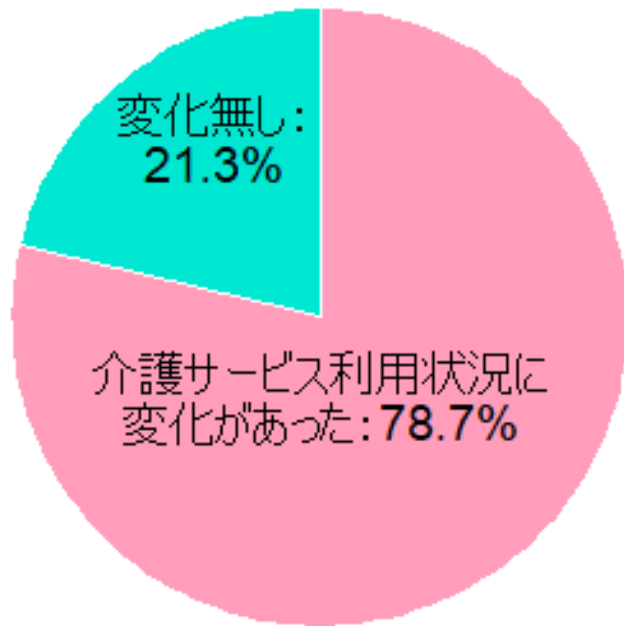


751名が回答

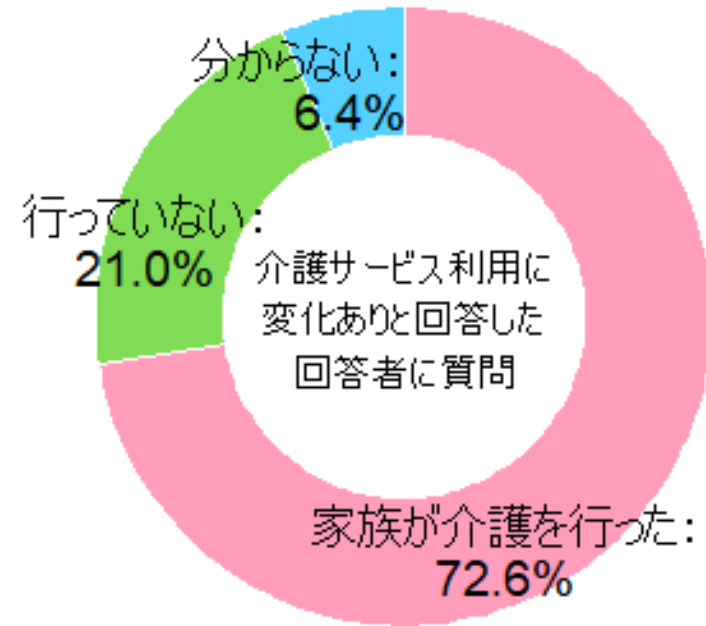
在宅認知症調査：介護サービスと家族負担

8割近い介護支援専門員が介護サービス利用状況に変化があったと回答しており、そのほとんどが「一部のサービスが受けられなくなった、受けなくなった」としている。その場合、家族が介護を行ったとの回答が7割を超えていた。

介護サービス利用状況



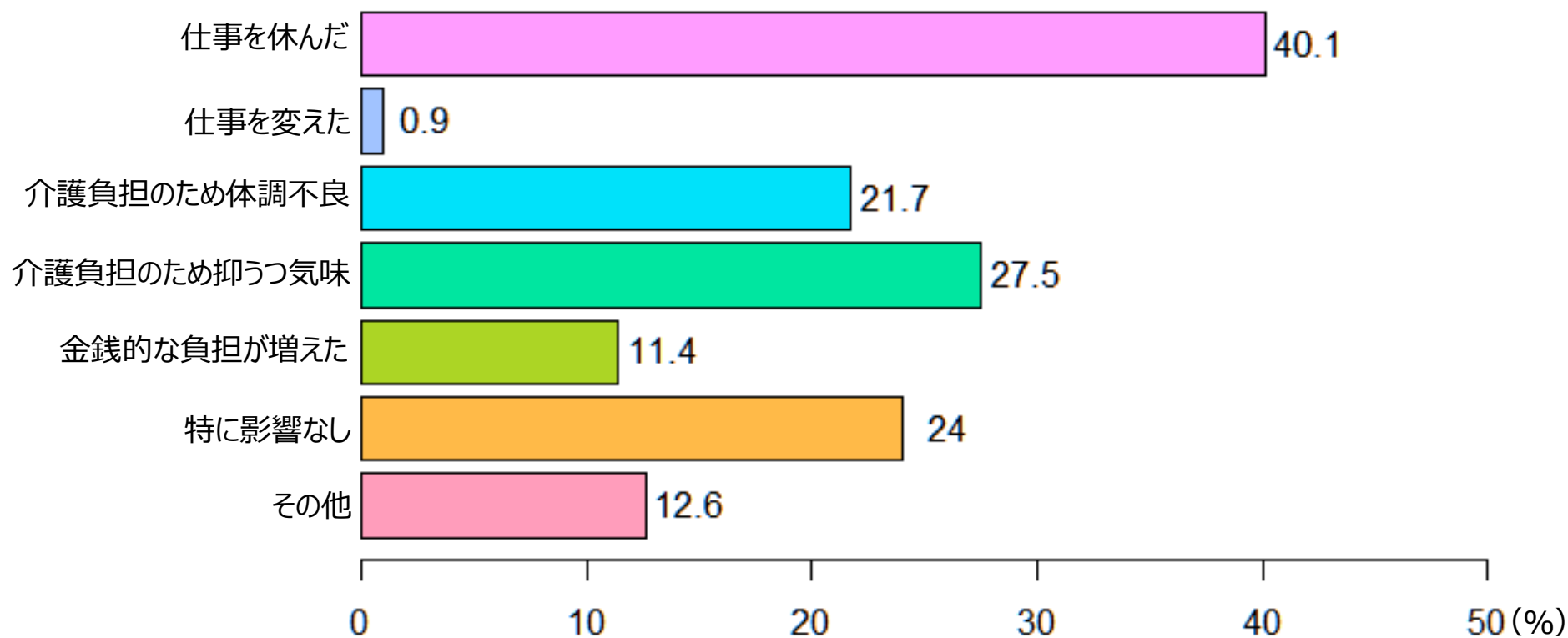
家族の介護状況



在宅認知症調査：家族負担

家族が介護を行った場合の負担として、最多は「仕事を休んだ」であったが、身体的な負担や精神的な負担もそれぞれが2割を超えて選ばれていた。

家族の介護負担



在宅認知症調査：家族負担

「他府県より介護の為に帰省された事により、ヘルパー援助が2週間ストップし、家族は2か月間自宅に戻らず援助をされた。」

「通所介護の利用を控えさせて在宅で介護しようとしたが、家族のほうで転倒骨折をしてしまった。」

「家族自身が不安感により、自ら介護を抱え込んだ。」

「県外からの定期的帰省していた介護者が帰省を控えたため、市内の介護者のみに負担が重なった。」

「虐待傾向となった。」

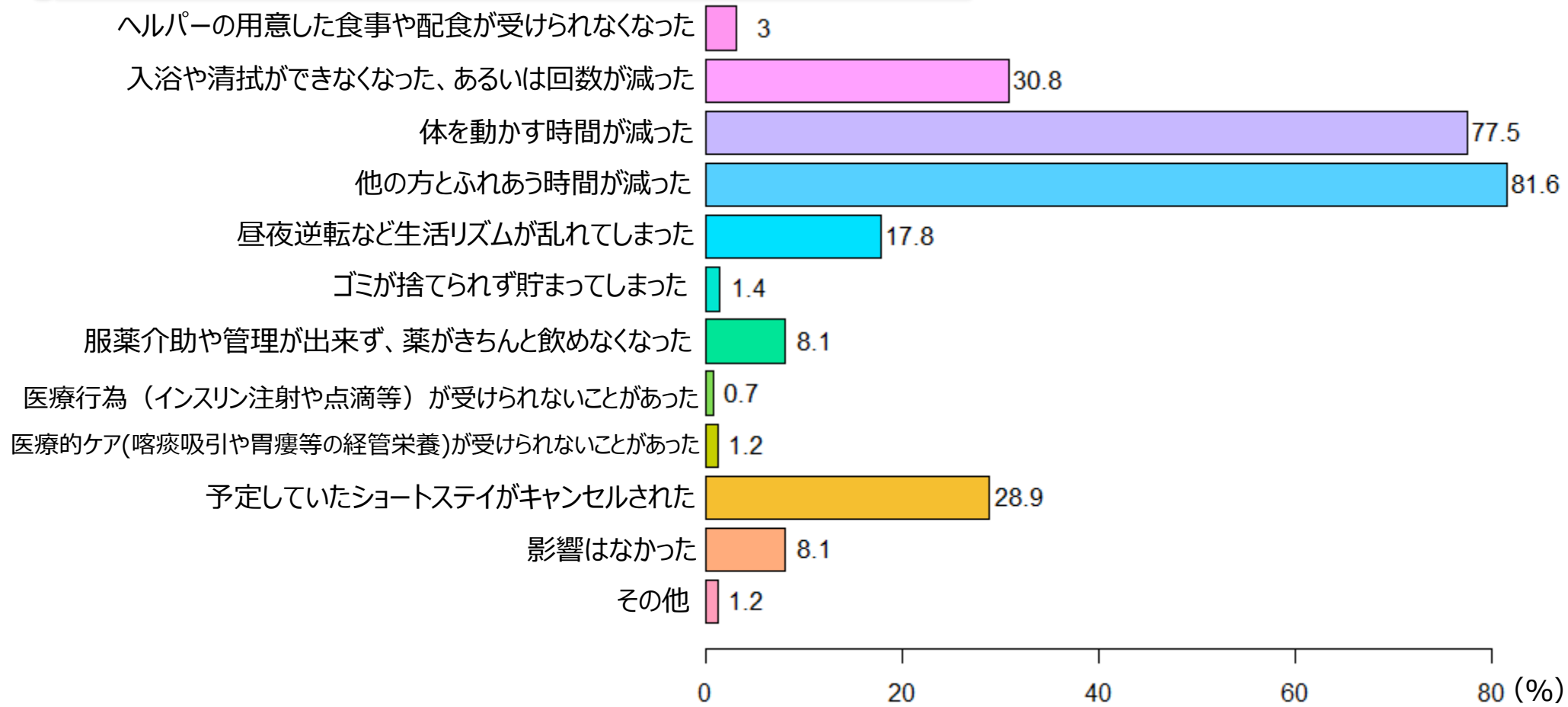
「介護負担が増え兄弟間でのトラブルが増えた。」

「認知症の家族を一人で家に置いて、仕事に行かざるを得ず、不穏になり、家族の精神的負担が大きくなった。」

在宅認知症者の生活に生じた影響

介護サービス利用状況に変化があったと回答した78.7%の回答者には、さらにそれによって生活にどのような影響が生じたか回答を求めた。
「体を動かす時間が減った」「他の方とふれあう時間が減った」が特に多くみられた。

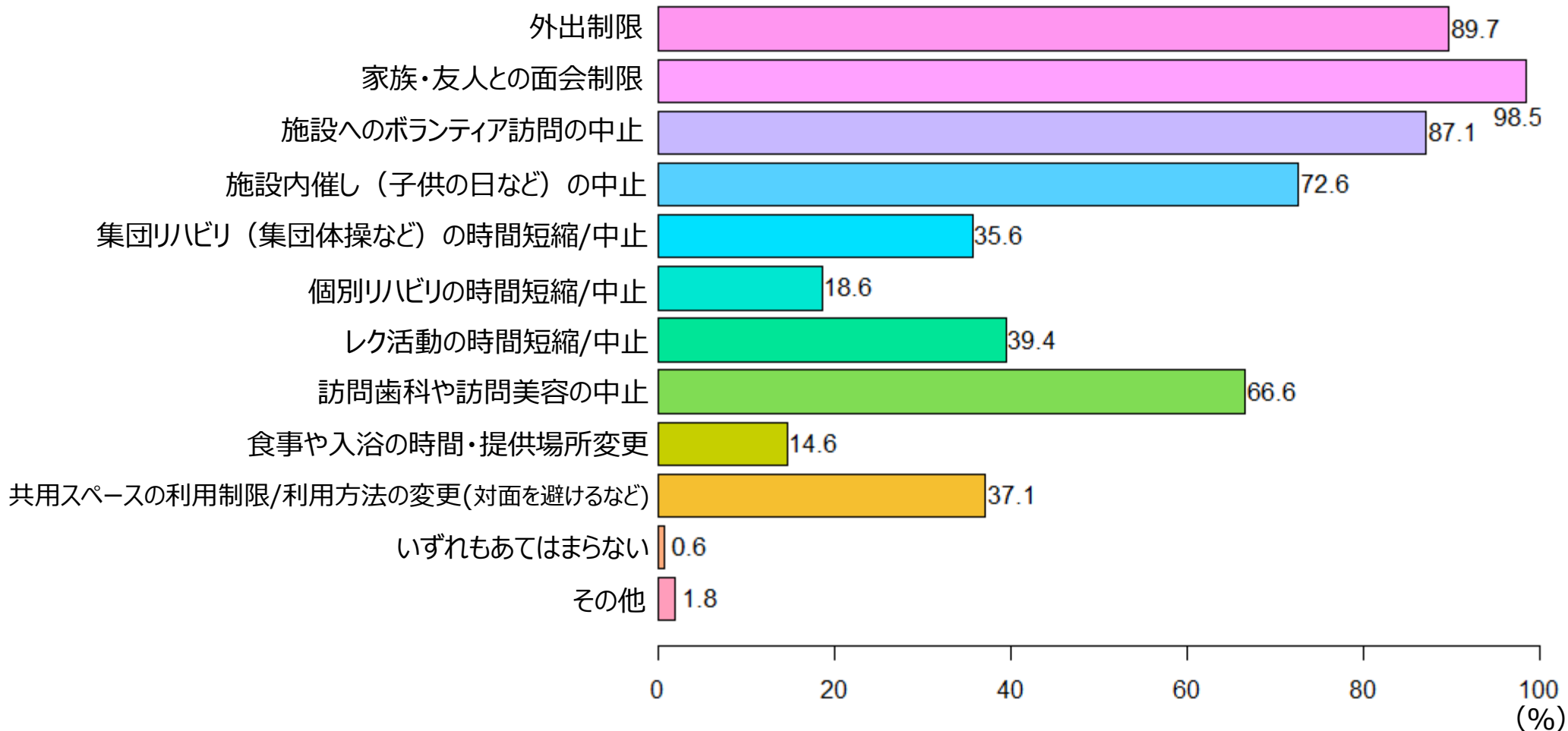
介護サービス利用状況の変化による生活への影響



施設認知症者の生活に生じた制限

医療・介護施設に入所中の認知症者においては、広範な活動で制限が生じていた。外部との接触を減らすため外出制限や面会制限は8割以上の施設で行われていた。

入所者の日常的な活動の制限

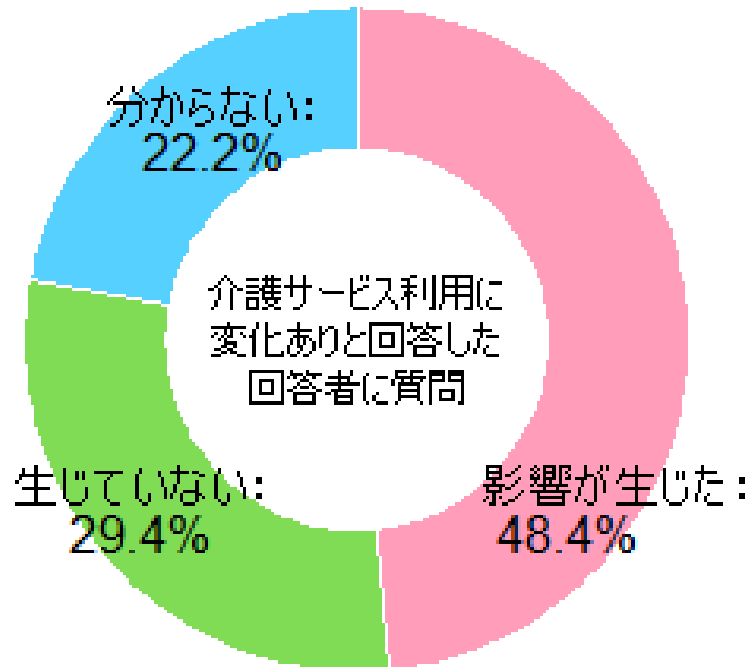


生活上の変化による認知症への影響

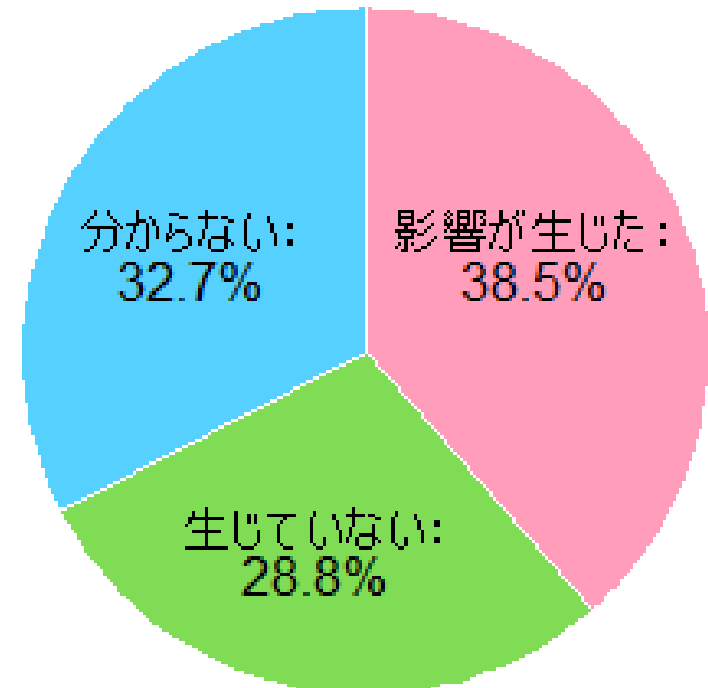
医療・介護施設の38.5%、介護支援専門員の38.1%*が生活の変化（介護サービスの利用状況の変化や活動制限）によって認知症の状態に影響が生じたと回答した。

*全体の78.7%が介護サービス利用に変化ありと回答、うち48.4%が「影響が生じた」と回答したため、 $78.7\% \times 48.4\%$ として算出。

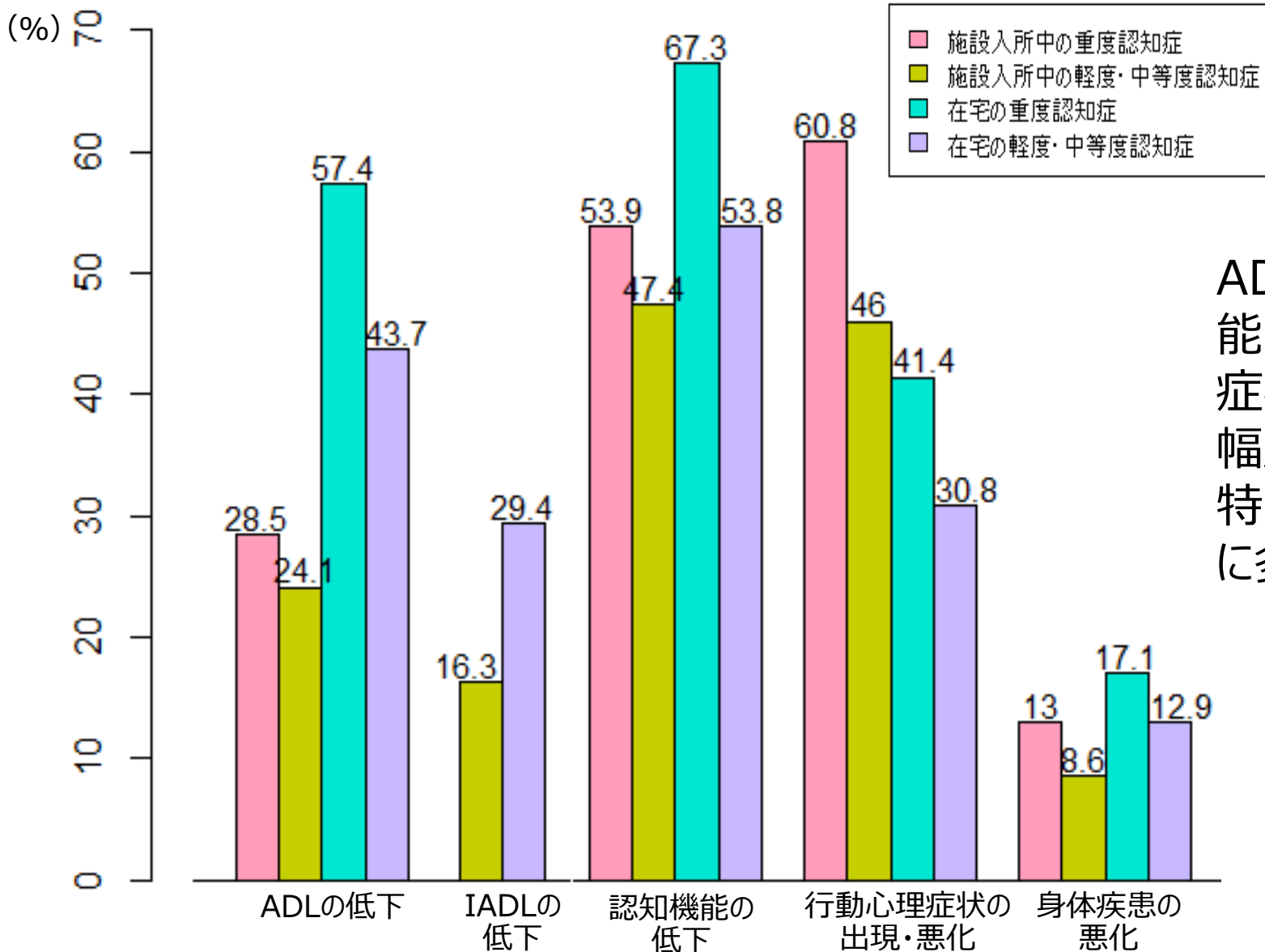
在宅認知症者：
介護サービス利用状況の変化
による認知症への影響の有無



施設入所中認知症者：
日常的な活動の制限による
認知症への影響の有無



認知症者にみられた影響（１）

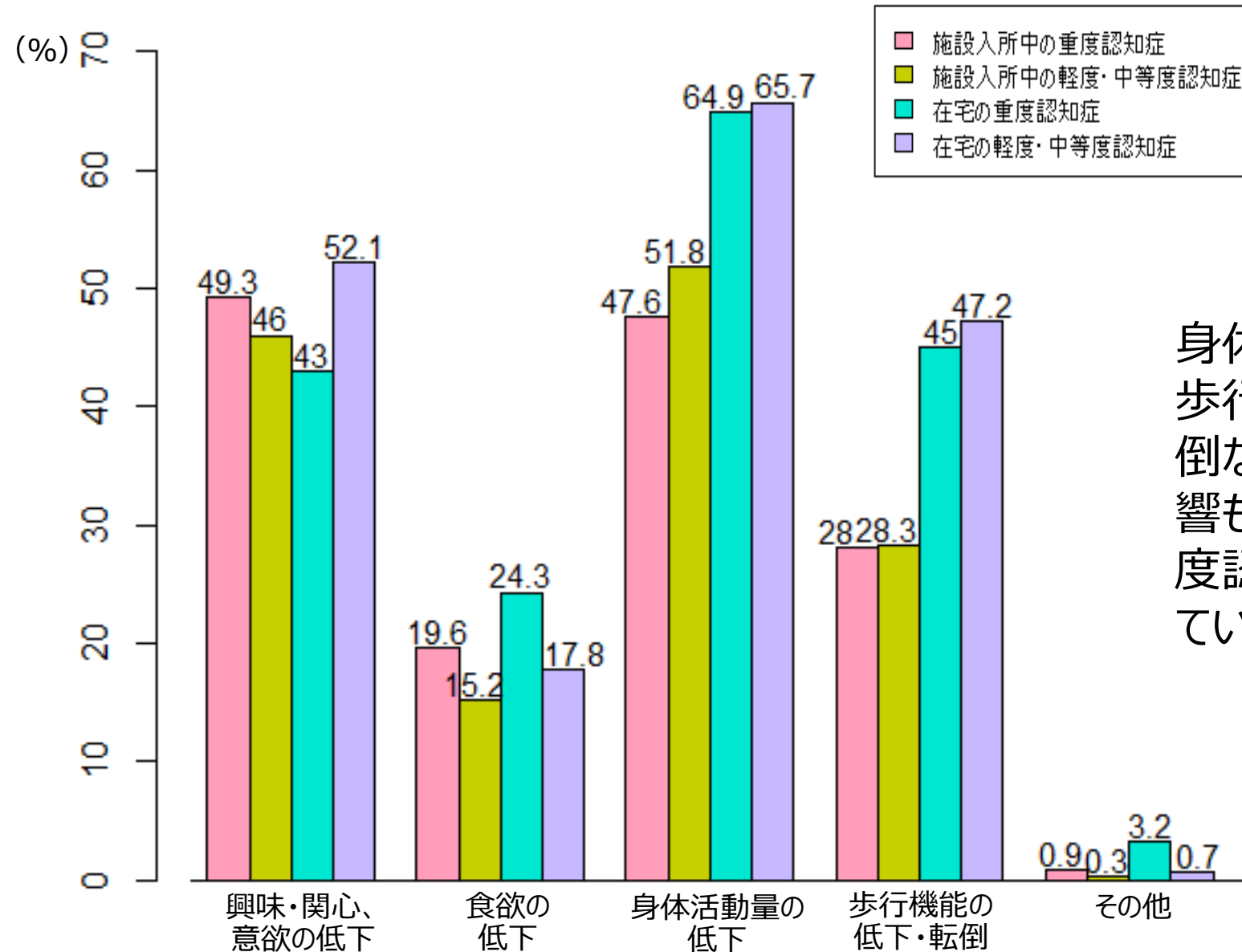


ADLの低下、認知機能の低下、行動心理症状の出現・悪化は幅広く見られており、特に重度認知症者に多くみられていた。

ADL: 基本的日常生活動作（日常生活における基本的な移動や食事、更衣、排泄、入浴などの動作）

IADL: 手段的日常生活動作（料理や買い物等の家事、交通機関の利用、電話、服薬管理、金銭管理等複雑な日常生活動作）

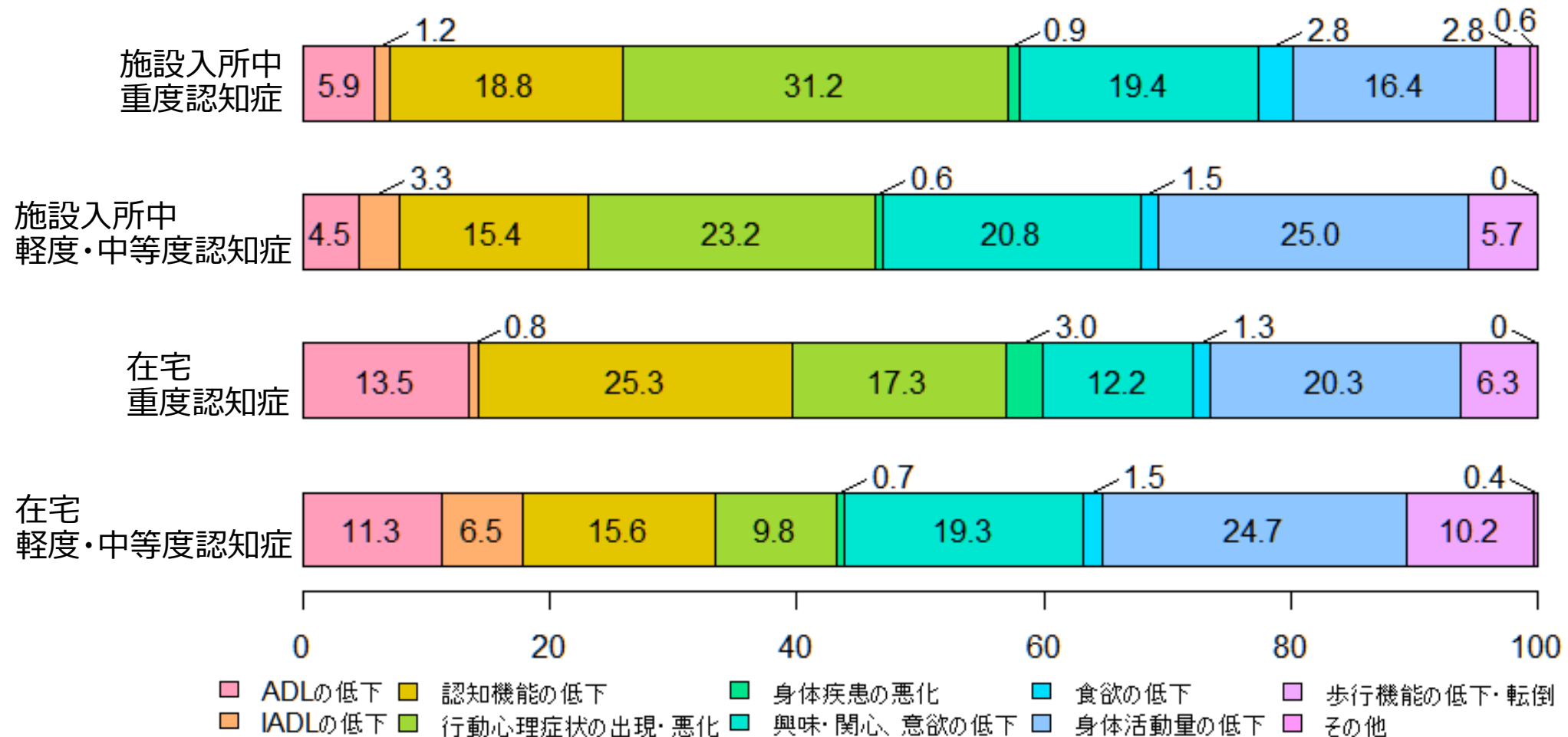
認知症者にみられた影響（2）



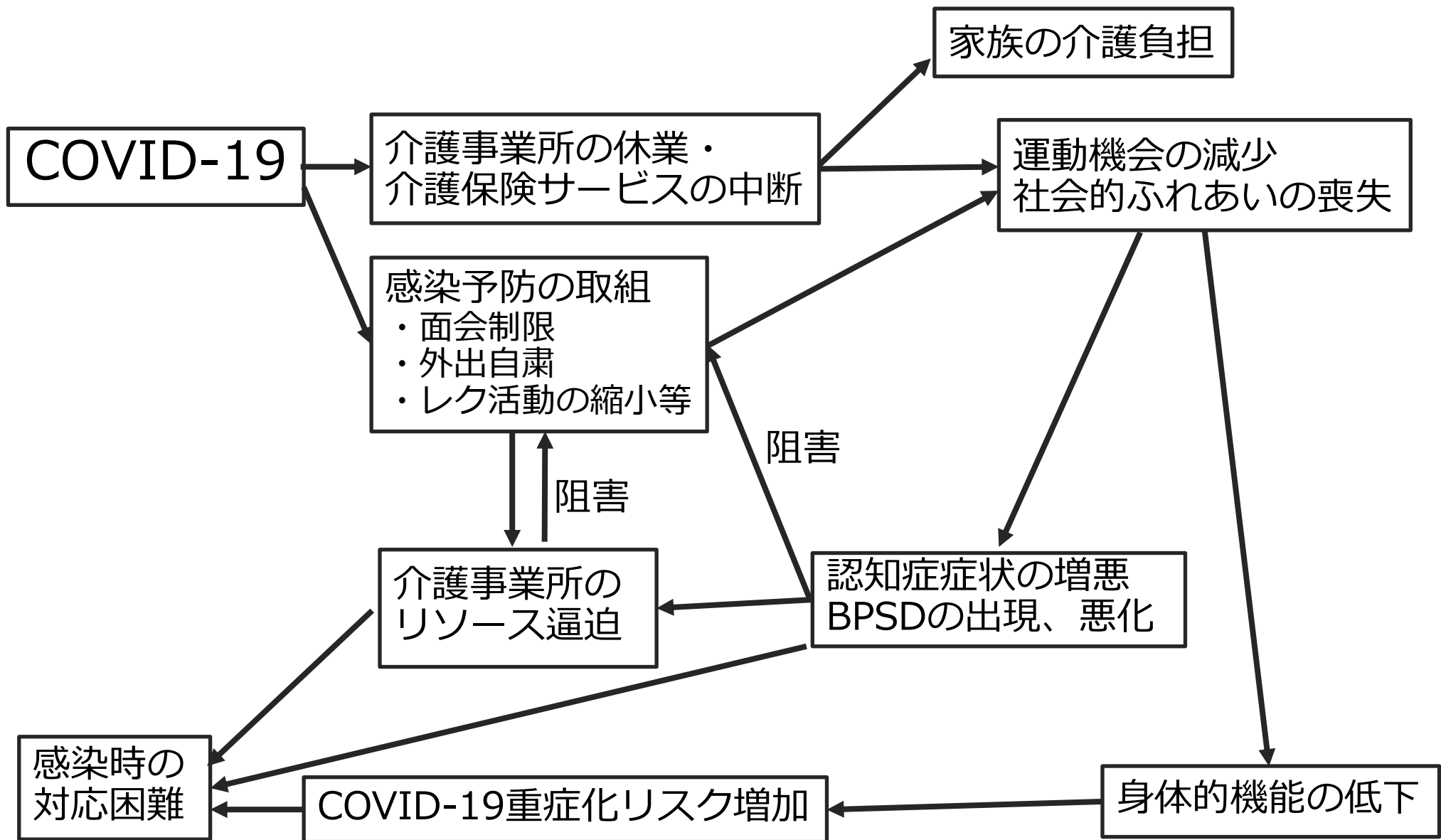
身体活動量の低下や歩行機能の低下・転倒などの身体面への影響も重度、軽度・中等度認知症に広くみられていた。

最も頻繁にみられた影響

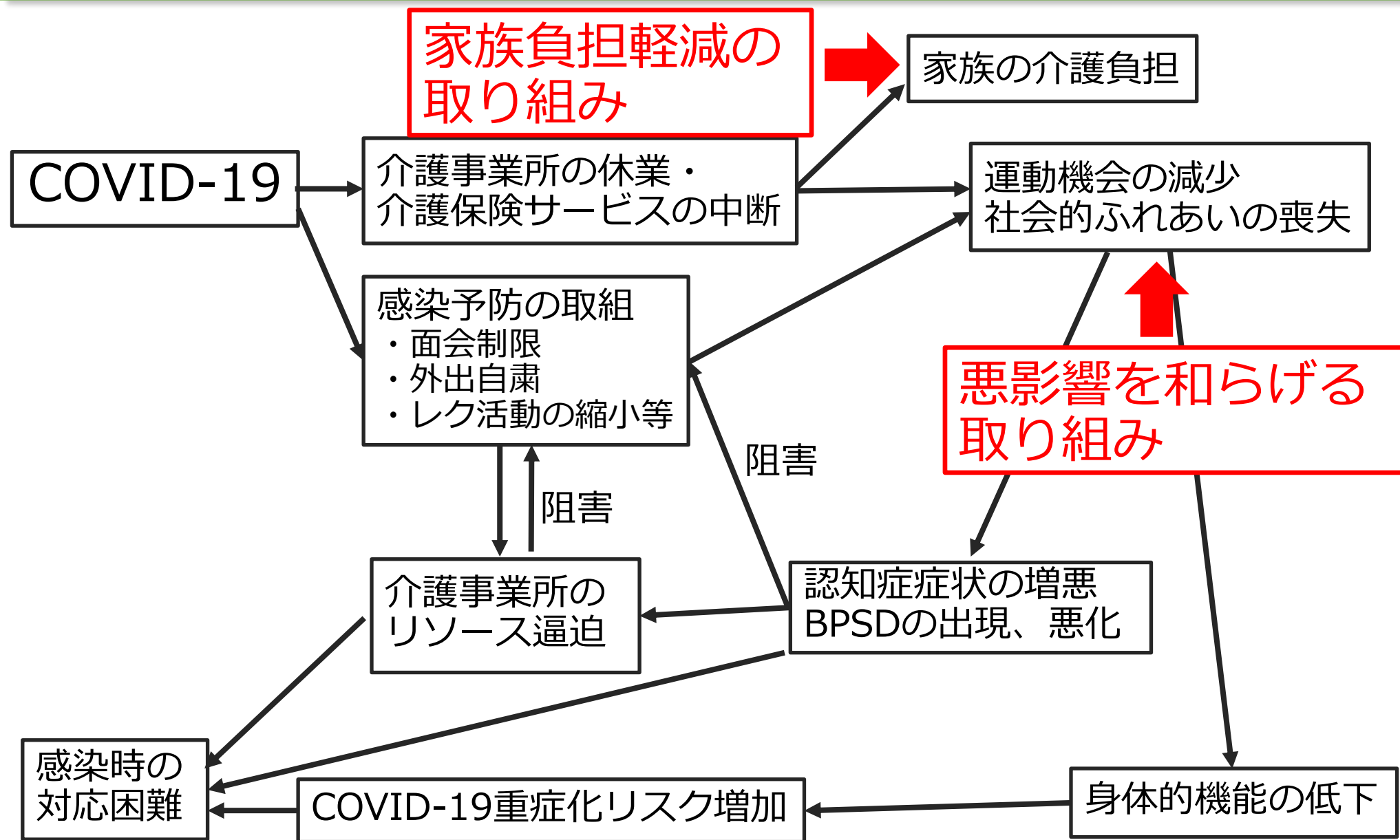
それぞれの施設やそれぞれ介護支援専門員が担当している認知症者の中で最も頻繁にみられた影響について回答を求めたところ、「認知機能の低下」「行動心理症状の出現・悪化」「興味・関心、意欲の低下」「身体活動量の低下」が多くみられた。



新型コロナウイルス感染症流行下で生じた事



新型コロナウイルス感染症流行下で生じた事



取組

認知症予防

コロナ禍における認知症の人への支援

コロナ禍での介護・認知症予防の取組

日本老年医学会

「新型コロナウイルス感染症」

高齢者として気をつけたいポイント

**「新型コロナウイルス感染症」
高齢者として気をつけたいポイント**
2020年3月 日本老年医学会より

新型コロナウイルス感染症が流行しています！
喫煙者や糖尿病、心疾患など基礎疾患をお持ちの方は、感染症が重症化しやすいので注意しましょう。また感染しないために、**手洗い**を中心とする感染予防を心がけましょう。ただ、感染を恐れるあまり外出を控えずに『生活不活発』による健康への影響が危惧されます。



ずっと家に閉じこもり、一日中テレビを見ていたり、ぼーっとしてたり食事もたまに抜かしてしまう・・・誰かと話すことも少なくなった

こんな動かない毎日気がついたら・・・

生活不活発に気を付けて！

「動かないこと（生活不活発）」により、身体や頭の働きが低下してしまいます。歩くことや身の回りのことなど生活動作が行いにくくなったり、疲れやすくなったりし、フレイル（虚弱）が進んでいきます。2週間の寝たきりにより失う筋肉量は7年間に失われる量に匹敵するとも言われています！



健康 → フレイル（軽度） → フレイル（重度） → 要介護（身体機能低下）

フレイルが進むと、体の回復力や抵抗力が低下し、疲れやすさが改善しにくくなります。またインフルエンザなどの感染症も重症化しやすい傾向にあります。フレイルを予防し、抵抗力を下げないように注意が必要です。

一般社団法人 日本老年医学会
© 2020 一般社団法人日本老年医学会

国立長寿医療研究センター

「在宅活動ガイド2020」

国立長寿医療研究センター
在宅活動ガイド 2020
NCGG Home Exercise Program for Older People (NCGG-HEPOP) 2020

PDF版はこちら

東京大学高齢社会総合研究機構

「おうちえ」

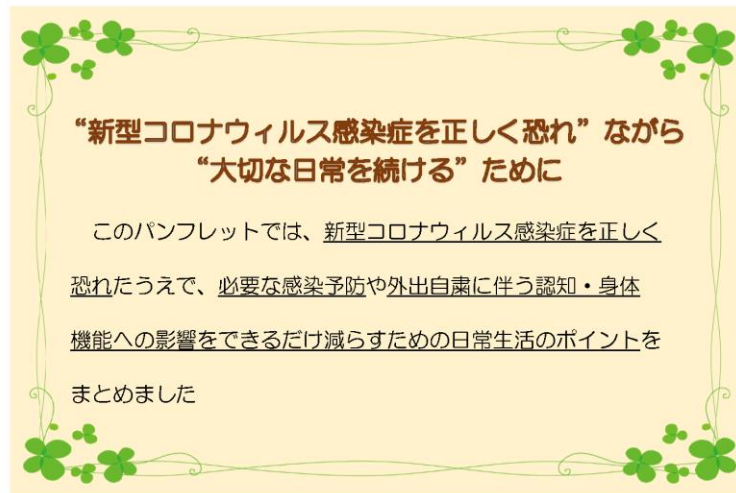
※
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に負けない！
※

シニアのための
**おうち時間を
楽しく健康にすごす知恵**

お いしく 食べて健康に	う ちで過ごす 時間を豊かに	ち いきで 近くで支え合い	え がおで ゆとりの心持ち
 からだ	 くらし	 きずな	 こころ

ご本人、家族を対象とした支援の取り組み

認知症をお持ちの方とご家族の方へ



広島大学大学院医系科学研究科 共生社会医学講座

広島大学大学院医系科学研究科 公衆衛生学講座

広島大学病院 感染症科

一般社団法人 日本老年医学会

公益社団法人 認知症の人と家族の会広島県支部

2020年12月7日 初版

パンフレットの作成・公表

(広島大学、老年医学会、
家族の会広島支部)



コロナに関する基礎知識や感染
予防の具体的な方法など



感染拡大への備え（介護保険サー
ビス縮小や感染時など）



身体・認知機能低下予防の取組に
ついて

広島大学共生社会医学講座
<http://inclusivesociety.jp/>
からダウンロード

パンフレットのコンセプト

認知症ご本人とご家族を対象に、

認知症症状や日常生活機能等に合わせた

**感染予防、認知・身体機能悪化予防を実践する
ための基本情報提供と実際の行動プラン**を紹介
し、実践を支援すること

日々の生活で心がけていただきたい3つのこと (本パンフレットの内容)

1.心構えとして知っておいていただきたいこと

新型コロナウイルス感染症、特に認知症の症状に合わせた感染予防などに関し必要な知識

2.感染拡大の前に心がけていただきたいこと

介護保険サービス縮小の場合、認知症をお持ちの方・ご家族が 感染した場合に備える

3.認知・身体機能をできるだけ悪化させないために、毎日続けていただきたいこと

社会とのつながりを保つ、運動など

心構えとして知っておいていただきたいこと

新型コロナウイルス感染症の基礎知識

- 高齢者においては重症化リスクが高く、予防の取り組みが重要であること
- 高齢者においては非典型的な症状がみられることもあるので、注意が必要であること

いつもと違う変化に気づくための主な3つのポイント

“食欲がない”

“ぼーっとしている”

“活気がない”

- ✓ 認知症をお持ちの方は高齢者が多く、ご本人が症状を自覚しにくい、一旦感染すると重症化するリスクが高いため、“これくらい大丈夫かな”と思っても急に重症化することがあり、医療機関への早めの相談が大切

認知症症状に合わせた、感染予防の工夫について

認知症の症状によって起こることのある困りごと

- 感染予防の必要性が伝わらない
- マスクを着けてもすぐ取る、マスクをしようとしらない
- マスクが息苦しい
- マスクを口に入れてしまう（異食）
- 家族がマスク着用したときに、ご本人が不安がってしまったり、意思疎通が難しくなったりする
- 手洗いをしようとしらない
- 人との距離が取れない
- 家の中や外を歩き回る症状がみられる
- 寒くて換気を嫌がる
- ベッド臥床がほとんどなど、ご本人の活動範囲が小さい、身体が触れる介護が必要

感染拡大の前にこころがけていただきたいこと

備えのポイント

- ✓ 感染流行による介護保険サービス縮小に備えて
- ✓ サービスが縮小した場合に備え、ケアマネジャーと確認、相談していただきたいこと
- ✓ ご家族が介護を担う必要が急に生じる可能性への準備も大事
- ✓ ご本人・ご家族が感染した場合に備えて



実際にあった事例なども紹介しつつ、備えにあたって必要となることを具体的に示しました

毎日続けていただきたいこと

感染予防に気をつけながら日常生活をおくるポイント

もっとも大事なことは“できるだけ今通りの生活を続けること”です。
そのためにも 次の3つのポイントを日々心にとめておきましょう。

✓ 生活リズムを保つこと

寝起き、食事など日々習慣となっている生活のリズムを保つことで、ご本人のストレスや混乱を減らし、安心感をもつことにつながり、睡眠や体の状態も安定します。

✓ 3密を避ける形での交流を継続し、地域での顔なじみの関係（民生委員や町内会など）を保つこと

✓ 自宅での運動を取り入れる、続けること

適度な運動は、心身の調子を整え、転倒の予防にもなります。
ご本人の調子に合わせ、できる範囲でやってみましょう。

謝辞

以下の団体の皆様方には、本調査の実施に多大なご理解とご協力を頂きました。また、医療・介護施設勤務の皆様方および介護支援専門員の皆様方には**COVID-19**対応のため多大な負担を強いられている中、調査にご回答頂きました。

この場を借りて改めて深く御礼申し上げます。

日本精神科病院協会

日本慢性期医療協会

全国老人保健施設協会

全国老人福祉施設協議会

日本認知症グループホーム協会

全国介護付きホーム協会

日本介護支援専門員協会



一般社団法人日本老年医学会
The Japan Geriatrics Society



広島大学

ご静聴ありがとうございました。

【問い合わせ先】

広島大学大学院医系科学研究科共生社会医学講座
特任教授 石井伸弥

E-mail : sishii76@hiroshima-u.ac.jp

Tel&Fax: 082-257-2018